

ボール拾い

私自身のことなので、もうだいぶ前のことになります。私は中学校に入学し、部活動が楽しみで楽しみでしかたがありませんでした。どの部活動に入ろうかと考えました。背が低かったので、バレーボールやバスケットボールはだめだなと考えました。野球は上手な人がたくさんいそうでした。

そこで考えたのがテニス部（現在はソフトテニス部）でした。テニスは決められたエリアにボールを入れる競技（きょうぎ）です。背が低くてもできそうです。それにみんな中学生になってから始めるので、スタートラインが誰（だれ）でも一緒（いっしょ）でした。「これはいけるかもしれない」と考えました。

毎日毎日、帰りの学活が終わるのが待ち遠しい日々が続きました。1分でも早くテニスコートに行きたかったのです。最初は、ボール拾（ひろ）いでした。一生懸命（いっしょうけんめい）ボールを拾いました。誰よりも拾いました。そうした中でも、先輩たちのボールの打ち方や動き方は観察していました。

たまに1年生にボールを打たせてくれるときがありました。誰よりも早く集合し、ボールを打たせてもらいました。いつも先輩たちを見ていたので、頭の中にイメージはありました。すると、思いがけずボールがうまくとんだのです。それはそれほうれしかったのを覚（おぼ）えています。先輩にもほめられました。

あるとき、顧問（こもん）の先生より、1年生の中から、がんばっている人を3人だけ大会に連（つ）れていくという話がありました。それからは、それまで以上にボール拾いに燃（も）えました。

そして、3人の名前が呼（よ）ばれる日がやってきました。ドキドキでした。顧問の先生から私の名前が呼ばれました。「よし、やったあ」うれしくてうれしくてしかたがありませんでした。

あの頃は、その後何十年と自分がテニスと関（かか）わることになろうとは想像（そうぞう）もしませんでした。当たり前のことですが、中学1年生は人生の中で一度しかないのです。そのときでないとできないことがあります。私の場合は、燃えるようなボール拾いでした。

中学2年生も3年生も同じです。人生で二度はないのです。そう考えると、今やるべきこと、やっておくべきことがあるはずです。後で「こうすればよかった」と思っても戻ることはできないのです。中学校の部活動は今しかできないのです。